

生活記録ノートを活用した 家庭学習の習慣化に関する指導の工夫

【春日部市教育委員会】

1 学校、学年、教科

中学校、全学年、全教科・領域

2 ねらい

家庭学習の習慣化を図り、生徒が自ら学ぶ力をはぐくむ。

3 取り組み内容

(1) これまでの取り組み

本校では、昨年度に「学力向上を目指し、豊かな心を育む生徒の育成—新学習指導要領を踏まえて—」を研修主題として取り組みを行ってきた。本年度は、昨年度まで行われた学力向上のための指導の在り方や家庭学習の在り方の研究を継承し、さらにこれまでの本校の研修の成果を生かしながら課題に取り組んでいる。とりわけ、家庭学習の在り方については、生活記録ノートを基底とした全校一致の取り組みを実践している。

(2) 生活記録ノートの活用

生徒は、明日の準備や連絡、その日の出来事などを生活記録ノートに毎日記入する。これらの一連の行動は日々の生活習慣として定着している。そこで、これと連動する形で家庭学習が定着することをねらいとした本校の生活記録ノートは、見開き2頁に1日分の生活記録と家庭学習を書き入れる特徴的なものとなっている。家庭学習を書き入れる部分には横罫のみが印刷され、生徒自身が割り付けを考え、自身に必要な学習ができるように工夫されている。

生活記録
を記入す
るエリア

家庭学習
を記入す
るエリア
(1頁目)



家庭学習
を記入す
るエリア
(2頁目)

(3) 生活記録ノートの在り方（教師間での共通理解）

平成22年度より全校で現在の生活記録ノートを使用しているが、教師間での共通理解を持つ機会がなく、教員一人一人の観点で指導と評価を行っていたため、学級によって取組にばらつきがあった。そこで、本年度は校内研修を通じて問題点や活用方法などを出し合い、共通理解を図った。その結果、以下のように生活記録ノートの在り方をまとめることができた。

- ①家庭学習の習慣化を図ることを主目的とする。
- ②「誰でも、無理なく、継続して」行えることを基本とする。
- ③個に応じた指導を念頭に指導と評価をする。
- ④内容についての制限はなく、どの教科を学習してもよい。
- ⑤学習したプリントを貼り付けてもよい。
- ⑥塾等での学習とは切り離して考え、家庭学習の習慣化へと立ち返る。

4 成果と課題

平成23年度に実施した1・2年生に対する『生活記録ノートにおける家庭学習実態調査』の結果と、平成24年度の同時期に実施した2・3年生に対する同調査を比較した。尚、平成23年度と24年度で対象学年が異なるのは、進級した同一の生徒の変容を明らかにするためである。（対象人数 H23：727名、H24：729名）

(1) 調査方法

生徒一人につき、生活記録ノートの見開き2頁に家庭学習が概ね記入されていれば1日分として数え、2週間（正味10日間）分を集計した。それらの人数を通計し、“9日以上” “7日以上” “5日以上” “3日以上” “2日以下” に分類し、割合を算出した。

(2) 調査結果

“9日以上”の生徒の割合が23.4ポイント上昇し、“3日以下”の生徒が16.7ポイント減少した。“7日以上” “5日以上” “3日以上”の生徒は、ほぼ横ばいであった。（図1）

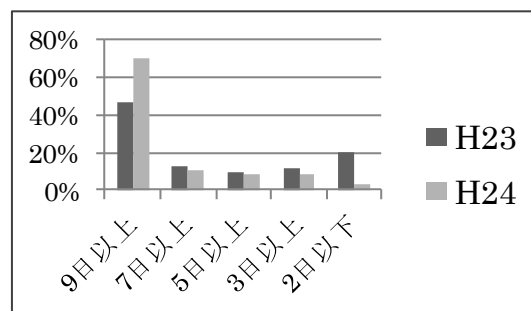


図1 生活記録ノートにおける家庭学習実態調査

(3) 考察

全体的に家庭学習の実施日数が、大幅に増加したことがわかる。それは、①生活記録ノートにおける学習の目的が明確にでき教師間での共通理解ができたこと、②「誰でも、無理なく、継続して」を念頭とした指導で生徒の家庭学習に対する意識が変化したこと、③学年が上がり自己の学習に対する意識が高まったこと、に起因すると考えられる。

(4) 今後の課題

現時点では、家庭学習の習慣化を図ることを主目的としているが、家庭学習の質の向上や個に応じた段階的な指導などに力を入れる必要がある。さらに『自ら学ぶ生徒』の育成に向けた体系的な取組によって、より一層の効果を有した生活記録ノートと家庭学習の充実が実現できる。